

Bits  
0

- 2 「おい、面白い裁判だったな」
- 3 「面白い？」
- 2 「人殺しってことよ」
- 1 「あの顔してね」

鍵を開け、扉の開く音。

十二人入って来る。

「十二人の怒れる男(3人)」

原作…レジナルド・ローズ F

上演台本…永妻寛

Large Bits 1 ● Medium Bits 1 — Small Bits 1 • title 「少年は有罪」

ドアが閉まり、鍵を掛ける音。

2、後ろを振り返り、

- F 「あッ……」
- 2 「あいつ鍵閉めたぜ」
  - 1 「当然でしょう」

F は手帳を手に一々メモっている、いわゆるメモリまだ。

- 2 「へえ、隔離状態か？」 (★2の「隔離状態」の個人の意味は?)

Sm・B 3 • title 「少年は有罪・投票」

- 2 「こんなはつきりした事件を弁護士の奴長話しやがって」 (★どんな事実?)
- 1 「皆さん、席に着いて下さい……(一同席に着く)じや、はじめます。メモをくばります」

- 2 「何すんだよ？」

- 1 「無記名投票用紙ですが」

- 2 「そんなのまじろっこしいよ、挙手！」 (★2の性格・キャラクター)

- 1 「皆さんは？」

- 3 「わたしもそれで……」 (★挙手で自分が無罪であると知ってもらいたい…何故?)

- 2 「早く決めようぜ、みんな忙しい身体なんだ」 (★P||何が忙しいの?)

- 1 「この事件は……」

- 2 「第一級殺人で有罪の評決を出れば奴は死刑だ」

- 1 「あなた、黙って！」 (★1は、2の人格を知っての、せりふ。何故?)

- 2 「了解！」

- 1 「えー、有罪、無罪どちらの評決でも全責一致が条件です」

- 2 「有罪！」

と手を上げる。

1、2を無視して、

「……では、有罪の人は……」

3 以外、挙手。

一同、3を見る。

1 「有罪が十一人……無罪は？」

3、手を挙げる。

● Me Bits 2 | Sm・B 1・title 「3が無罪」

2 「(3)に おい！」

1 「無罪、一人。本当に無罪だと思うんですか？」

3 「解りません」

2 「何だ、この野郎！」 (★以下、1、2は有罪の事実の映像が浮上する)

1 「法廷で聞いたでしょ。あの子は人を殺した」

2 「お前、寝てたのか？」

1 「父親の胸を10センチも刺したんですよ」

2 「証拠は山ほどあるんだ！」

1 「どうしたいんですか？」

Sm・B 2・title 「話し合しましょう」

3 「話し合しましょう」(★ナイフ・鉄道の轟音の事実が挿んでいる。女性の証言は?)

2 「へ、あきれね、今さら……」

3 「私が有罪に投票するとあの子は死刑だ」

2 「死刑の何処が悪い！」(★子供への恨み。何故?)

3 「人の生死を五分で決めて、評決が間違っていたらどうするんです？」

2 「ど」が、間違いだ ど」がー」

1 「(2)に あなた、少し落ちついて」

3 「二時間話し合しましょう」(★一時間で説得出来る理由？ それとも不安?)

3、柱時計を差して、

「現在、5時15分ですから、6時15まで、でないと私は無罪を押し通します」

● Me Bits 3 | Sm・B 1・title 「話し合しましょう」

2 「みんな聞いたか、どういう奴だこいつは!？」

1 「私はね、彼の証言から有罪を確信しています。つまりあの子の言葉の中に無罪の証明が一切ない」

3 「有罪こそ証明が必要でしょう」

2 「理屈こねやがって!」

1 「みなさん、意見は?」

2 「よし分った。一時間だ……話し合おう!」(★何故、短気のが話し合おうと決めたのか?)

Sm・B 2・title 「一時間、話し合いましたよ」

1 「分かりました……それで?」

3 「被告の少年は悲惨な人生を送って来ています」(★悲惨な人生の人は大勢いるのに何故

少年の弁護を?)

3 「スラム街に生まれ、九歳で母と死別……」

2 「そんな話は法廷で何べんも聞いたよ」

2 「人殺しに何を考えてやれって言うんだ?」

Sm・B 3・title 「目撃者が居る」

1 「あなたさ、何故彼が無実なのか言って貰えますか? 目撃者がいる。下の階の老人

2 「それにな……」

1 「(2)に割り込んで)向かいのビルの女性の証言が何よりの証拠だと思いますよ。彼女は少年が人を刺すところを 見ている」

2 「見てるんだよ!」

● Me Bits 4 | Sm・B 1・title 「高架鉄道」

3 「しかし彼女の部屋は高架鉄道を挟んだ向かいのビルです。その時電車も通過していた」

1 「彼女の部屋から電車の向こうは見えると証明されています」(★誰が証言したの?)

Sm・B 2・title 「事件の発端」

2 「オヤジと倅が大喧嘩して、頭にきたオヤジがガキを二回ぶん殴って、少年は怒って出て行った……」

- 1 「そう、それが事件の発端ですよ」
- 3 「しかし、少年は小さい頃から何度も殴られていて暴力は生活の一部です。」(★自分も何度も殴られたことがあるのか?)
- 1 「限度だったかもしれませんが。限度……分かりますね」
- 2 「前科を見なよ。ひったくりとナイフの乱闘で施設送りだ。(3を論す様に) ナイフは名人だぞうだ」

Sm・B 4・title 『殺してやる!』

- 3 「本気で言ったんでしよつかね」(★脅して言う事はあるが、本気で?)
- 2 「何を?」
- 3 「本気で父親に『殺してやる』と言ったんでしよつか?」
- 2 「ああ、本気だよ、だから殺した!」

Sm・B 5・title 「スラム出身」

- 1 『家庭環境』のせいで事件を犯したとしても犯罪は犯罪です」
- 2 「スラム街の奴らはクズだよ、社会に必要な!」
- 3 「私もスラムの出身です」(★言えないことを口に出したのか、それとの人間としての自信が言わたのか?)

● Me Bits 5 — Sm・B 1・title 「正しい評決」

- 3 「だからといって彼の見方をする訳でもありません。私はただ正しい評決を出したいだけですよ」(★「正しい評決を……」この事を言わせた彼の過去は?)
- 2 「おい、寝ぼけたことを言うなよ。立派な裁判をやったろうが、金も掛ってんだ!」(★「確かな証拠はない」と思い始めたんです」  
幾らくらい?)
- 3 「私は法廷の六日間の証言を皆さんと一緒に聞いて来ました。しかし、その証言の中に確かな証拠はないと思いはじめたんです」
- 2 「おい!」
- 3 「弁護人も充分に反対尋問をしています。すべてに見逃しが多過ぎます」
- 1 「質問なんかしたら、余計不利になるからじゃないんですか?」
- 3 「私なら弁護人を替えます。命がかかっているんだから。犯行を見た証人は女性一人だけ、もう一人の老人は声を聞いたとか、人が倒れる音がしたとか、状況証拠だけです。もし、間違っていたら……」
- 2 「間違える?」
- 3 「人間は間違えを犯すものだ」
- 2 「間違っていない!」

● Me Bits 6 — Sm・B 1・title 「ナイフ」(★以下、最も近いP、事実を明確にする)

2 「3」を睨み、肝心な話をしよう。いいか、父親の胸に刺さっていたナイフは少年が犯行の夜に買ったと認めている……あんたが納得するように、順に考えてみようぜ……父親に何度か殴られて……」

2 「午後八時に少年は家を出た。そのまま中古店へ行きナイフを買った。柄に珍しい模様があるナイフだ。店の主人も『あんなナイフは初めてだ』と言っている。『少年は午後十時半に映画を観て午前三時十分に帰宅し逮捕された。ナイフは映画へ行く途中で落としたと言っている』……嘘だな！」

1 「映画館へも行かなかったと思いますね。出演俳優も、題名も覚えていないんだから」

● Me Bits 7 | Sm 1・B 1 title 「ナイフ」

2 「たまたまそのナイフを拾った人間が少年の家で父親を刺したとでも言うのか？」

Sm 2・B 2 title 「似たナイフ」

3 「誰かが似たナイフで刺したとか……」

2 「まさか……笑わせるなよ？ そんな偶然がある訳ないだろうが！」

3 「可能性はあります」

2 「奇跡でも起きない限りない！」

3 「そうですね」

1 「同じナイフがあるっていうの？」

2 「馬鹿言っな！」

3、懐から、布に包まれた物を取り出すと、布をぐるぐると剥ぎ、同じ絵柄のナイフを一同に見せる。

Large Bits 2 | Sm 3・B 3 title 「存在した似たナイフ」

一同、騒然。

1 「同じだ？ これ、どこで……」

3 「昨夜、少年の家の近くの質屋で買ったんです。二十ドルでした」

1 「同じ様なナイフで誰かが父親を刺した？」

2 「無い、そんなことは……」

3 「さあ、どうでしょう。現にこうやって同じナイフが眼の前にあるじゃないですか」

1 「確率は低いけど、可能性はある」

2 「こうなったら評決不能にしようぜ、疲れた。必ず再審で有罪になるさ」

● Me Bits 8 | Sm・B 1・title 「存在した似たナイフ」

2、柱時計を指し、

「おい、あんたの言った約束の時間だ。さあ、お開きだ！」

Sm・B 2・title 「再投票」

3 「……提案があります」

1 「何ですか？」

3 「もう一度投票しませんか？ 私をのぞいて、もし有罪が11なら皆さんに従います」

2 「確かだな？」

3 「もちろん」

1 「よし、そうしましょう。反対の人はいませんね……では、有罪の方（10人 挙手）……無罪（と、1、挙手）」

Sm・B 3・title 「1の寝返えり」

2 「（1に）おい、お前ッ、もともとの不良が環境のせいで犯罪者になったなんて、お涙ちようだいのお伽噺に乗りやがって！」

1 「彼（女）は一人で闘った、有罪に確信が持てないからって……なかなか出来ることじゃない。その勇気を尊重して、私は無罪に……有罪かもしれない。もつと話し合うべきでしょ。10対？……」

● Me Bits 9 | Sm・B 1・title 「証人の証言」

2 「よし、分った……（1に）階下の老人の証言では、少年の『殺してやる！』と言う声を聞いた後、人が倒れる音がした。不審に思っただけで玄関のドアを開けると階段を逃げて行く奴の姿が見えた。これはどうなんだ？」

3 「老人が見たのは本当に少年だったんでしょうか？ それに天井越しに声が聞こえますか？」

2 「爺さんは確かに聞いたんだよ！」

3 「しかし、その叫び声が少年の声だったかどうか聞き分けるのは難しいんじゃないんですか？」

2 「こいつ、変だぜ、話になんねえや？ 向かいビルビルの女性の証言がある。車両の窓越しに少年が父親を刺すのを見た。それで十分だろ」

3 「こいえ」

Sm・B 9 | 2・title 「高架鉄道の轟音と8秒」

1 「何か確信があるなら言っして下さい」

- 3 「高架鉄道がある一点を通り過ぎる時間は？一点と言うのは殺人が起きた部屋の事です」
- 1 「何か関係があるんですか？」
- 3 「何秒だと思います、電車が通過する時間です？」
- 1 「さあ？」
- 3 「(居るであろう人に)分ります？」
- F 「……8秒？」
- 3 「そう、約8秒」
- Me Bits 10 | Sm.B 1 | title 「轟音による他の音」
- 2 「今度は、何のゲームだ？」
- 3 「いいですか、6両の電車が、ある一点を通過するのに約8秒 ……線路際に住んだ経験のある方はいます？」
- 1、F手を挙げる。
- 1 「以前、高架鉄道を見下ろす部屋に住んでいたけど……」
- F、頷く。
- 3 「電車が通過する時に他の音は聞こえましたか？」
- 1 「何も聞こえないですよ。電車の音がうるさくて……」
- F 「確かに……」
- Sm.B 10 | 2 title 「高架鉄道の轟音と二つの証言の証明」
- 3 二つの証言を結び付けます。まず、階下に住んでいる老人が『殺してやる』という叫び声を聞いた直後、人が倒れる音を聞いている
- 1 「ええ」
- 3 「第一に、向かいビルの女性が窓の外を見ていて、最後の二両目越しに殺人を目撃した」
- 1 「それがどうしたって言うんです？」
- 3 「最後の二両越しに殺人を見たなら、父親が倒れた時、電車はちょうど通過中だった。つまり、老人は何も聞こえなかったことになります」
- 2 「だから、大声で叫んだんだよ、大声で!!」
- 1 「無理ですよ。テレビのボリュームをいっばい上げてたって聞こえないんだから」
- Sm.B 10 | 3 title 「爺さんが走って確かに見た」
- 2 「いいか、何べんも言うが!」
- 1 「落ちついて!」
- 2 「うるせえ! 爺さんはな、確かにガキの声を聞いたんだよ、だからドアまで走って行って奴を見たんだ」
- 1 「待って!」
- 2 「何だ!」
- 1 「“爺さんが走った”？」

● Me Bits 11 | Sm・B 1・title 「老人の嘘」

3 「どうしたんですか?」

1 「もし、あの老人が嘘をついていたとしたら……」

2 「何だ!？」

1 「老人の足取りを覚えていますか? 老人はゆっく……証言台へあがった。そう、足が不自由なのを隠そうとしてね」

2 「足が何だって?」

1 「左足をね、少し引き摺っていたんですよ。気が付かなかったですか?」

3 「思いつか(べ) 確かに」

1 「老人は身体が不自由な事を恥ずかしいと思っていたんじゃないでしょうか?」

Sm・B 2・title 「試みましょう」

3 「待って下さいよ(と)、考える」

2 「今度は何だ!」

3 「やりましょう」

1 「何をです?」

3 「……試すんです」

1 「試す?」

3 「ええ、脳卒中で足の不自由な老人が、15秒でベッドから玄関まで行けるか?」

2 「20秒だろうが」

1 「いや、15秒と自慢げに言っていました!」

2 「もうろうくしている爺さんだ、信用できるか!」

一同、2を見る。

2、バツの悪い顔。

● Me Bits 12 | Sm・B 1・title 「老人の嘘」

3、ポケットから手帖を出し、

「いいですか、ベッドから寝室のドアまで3.6メートル、廊下から玄関のドアまで13メートル、合計16.6メートル。これを15秒で歩けるか?」

2 「歩けるだろ」

3 「老人にしては長い距離です。ここがベッドの位置。(3歩いて)ここが寝室のドア。廊下を測ります」

2 「何をやるつもりだ?」

3 「時間を計ります……玄関の位置は(こ)。チェーンがかかっていた。秒針付きの時計を持っている方は?」



1 「私が……」

3、ベッドの位置に着き、

3 「ではいつでもいいですから、合図をして下さい」

1、時計を見つめている。

2 「何を待ってんだよ」

1 「時計の針が上に来るまで……」

2 「(呆れる)」

1 「どうぞ！」

3 「ベッドから起き上がる」

3、ベッドから老人が起き上がる動作をして、左足を引きずり歩き出す。

1 「5秒経過」

2 「もっと早く歩いてたぞ」

3 「了解！」

3、少しスピードをあげる。

1 「10秒経過」

1は15秒を過ぎてしまったのでそこで立ち止まる。

3、ドアの位置まで来て止まり、

「ドアチェーンを外す、ドアを開ける、ストップ。時間は？」

1 「31秒です」

2 「……!？」

Large Bits 3 ● Me Bits 13

1 「あの老人が事件を知って、少年の声を聞き、人が倒れる音がしたと、思い込んだ……よくよく考えりゃ、なぜ逮捕されるのに家に帰って来たのかもおかしい」

Sm・B 13 — 1・title 「ナイフの不思議」

2 「刺したナイフを取りに帰ったんだよ」

1 「なぜ、現場にナイフを残したんです？」

2 「父親を殺してパニック状態で逃げ出したんだ」

1 「そんなに慌ててましたか、指紋をふき取る冷静さはあったんですよ」

3 「もし、少年が犯人なら、何故ナイフを死体に残したんでしょうか？」

1 「ナイフを買った事は、店の主人が知っていますからね。少年の父親に恨みを持った誰かが偶然同じようなナイフで少年の父親を殺し指紋を拭き取った、どうです？ これな

ら理

屈に合う。それとも、恨みではなく強盗だとしたら？」

2 「金があるような家じゃないぜ」

1 「お金以外の値打ちがあるもの？」

2 「そんなものがあつたらとつくに金に換えてるだろう」

1 「……はじめから父親を殺す気なら手袋をしていた……つまり、衝動的だった……待てよ？」

2 「どうした？」

1 「……ナイフは持ち帰れば済む事ですよね？」

3 「父親は心臓を刺されています。ナイフを抜くと返り血を浴びます」

1 「そうか……」

3 「犯人はその事を知っていた。血だらけの服装で街を歩けませんからね」

2 「それは、少年にも言える事だ！」

#### ● Me Bits 14

3 「少年はパニック状態だった……咄嗟にナイフの指紋を拭き取ってその場を立ち去り……」

……三時間後に気持ちが悪くなり、ナイフを取りに戻った」

2 「その通り！」

3 「(しつかりと)でもそうじゃなかったら」

2 「馬鹿を言え！ こんな茶番劇はじめてだ。あのガキは死刑にすべきなんだよ。電気椅子送りだ！」

#### Sm・B 14—1・title 「2の隠された恨みは何か？」

1 「ちよつと待って、あなたは死刑執行人か？」

2 「ああ、スイッチは俺が入れてやるよ！」

1 「少年を殺したいだけなんですよ」

2 「ああ、殺してやるよ!!」

3 「あなたは異常者だ！」

2 「何ッ」

- 3 「狂ってる!」  
2 「殺すぞ!!」

一同、2を見る。

- 3 「(微苦笑) まさか、本気じゃないでしょ?」  
2、3を睨みつける。

● Me Bits 15 — Sm・B 1・title 「喧嘩しちゃいけない・再度の投票しましょう」

- 1 「みなさん! みなさんは争うためにここに来た訳ではない筈です……私情を交えては  
いけないと思います……どうです、また投票しませんか? 反対の方は……」

一同、異存がないようである。

- 1 「(頷き)では私から……無罪。(居るであろう人に)あなたは? 有罪。……あなたは?  
……無罪。……あなたは?……無罪。……あなたは? あなたは? (2に)あなた  
は?」

- 2 「有罪!」

- 1 「(居るであろう人に)あなたは? ……分かりました、9対3です」

- 2 「……(無罪拳手の相手に)はッ、お前たちこそ狂ってるよ!」

Sm・B 15 — 1・title 「思い出せない映画」

- 1 「(3に)ひとつ疑問なのは、実行時間に観ていたはずの映画を少年が思い出せなかった  
ことですよ」

- 3 「父親と大喧嘩をして殴られた後ですよ、しかも警察の尋問は父親の死体のある寝室  
じんもん  
でおこなわれた。法廷では映画の内容を言っていましたよ」

- 2 「弁護士の入札知恵だよ」

- 3 「みなさん……偏見抜きで物事を考える事は難しいです。偏見で真実がばやけてしまう。  
しかし、九人が被告を無罪と思っている。間違っているかもしれない。犯罪者を釈放  
しようとしているのかもしれない。三人の方にお聞きしたい。なぜ有罪だと確信を持て  
るんですか? (2に)あなた、何故、確信を……」

- 2 「いいか、女が見てるんだよ、女が……それが証拠だ!」

2、3に怒りの眼を向けるが、顔を反らし、メガネを外すと目の付け根辺  
りをさすり出す。

● Me Bits 17 — Sm・B 1・title 「女性の容貌と嘘」

- 1 「……ちよつと……そつだ?!」

- 3 「どうしました？」
- 1 「(2)に ちよつとあなたにお聞きしたいんですが」
- 2 「何だ？」
- 1 「……何故そんな風に鼻をこするんですか？」
- 2 「気になるからだ」
- 1 「メガネのせいですか？」
- 2 「そうだよ、もういいか」
- 1 「みなさん、思い出して下さい。目撃者の女性ですが……あの方も法廷で何度も鼻をこすっていましたね」
- 3 「確かに……それが？」
- 1 「彼女は60幾つとか言っていましたね」
- 3 「5です、65歳」
- 1 「公おおやの場に出るので若作りをしていた。厚化粧で髪も染め、服装も若い女性が着るような物だった。メガネを掛けるのが恥ずかしかつたんでしようね……」
- 2 「鼻をこすっていたからつてメガネとは限らんだろうが」
- 1 「いや、あれはメガネの跡ですよ」
- 3 「メガネ以外にそんな跡が付きます？」
- 2 「分かったメガネの跡だとしよう。しかし殺しを見たときは一人で家に居たんだ。若ぶる必要なんかないだろう」
- 3 「確かに……しかし寝ようとしている時ですよ？」
- 1 「メガネをかけて寝る人はいないでしょう」
- 2 「さあ、どうかな？」
- Me Bits 18
- 2 「遠視だったら、サングラスの跡かもしれないだが」
- 1 「たとえ、遠視だとしても、18メートルも離れている人間を夜間に確認できるなんて、そんな人間がいますか？」
- Sm・B 18 — 1・title 「隠された子供への恨み」
- 3 「居るであろう有罪の人物に どうです、これでも少年は有罪ですか？ ……分かりました」
- 1 「……これで無罪は十一です」
- 3 「(2)に 有罪は……」
- F 「あなた一人だ」

2

「構わねえよ、これは俺の権利だ！ お前ら文句あるのか！ いいか法廷での証言の何もかもが証拠だ！ 奴は有罪に決まっているだろ。爺さんがみんな聞いたんだ、ドアまで走って行って奴を見たんだ！ 秒数なんて関係ねえ！ 同じナイフがあったからどうした！ お前たちの話はみんな大嘘だ！ 何もかもねじ曲げやがって！ メガネを外した女も宣誓せんせいしたんだ！ あの不良は死ぬべきなんだよ……いいか、ガキなんか信用するな！」

（★2がむぎになる理由は？ 2の心の中には我が子への愛が吹き荒れている。子供と何があつたのか？ ここには最も近いパースペクティブではなく、役のパースペクテ

ィブ、超課題Ⅱスーパー・サブジェクトが渦巻いている

2は力なくうな垂れる。

一同、隣れむように彼を見つめる。

3、2に近づこうとする。

2、3を手を挙げて制する。

2、虚脱したような声で、

「無罪……奴（あの子）は無罪だよ。決まりだ……」

深いF・O

完 2020.01.19.sum